

ぎふグローバル ニュース「Co-Work」 43 号 H28/3/8

フィリピン レイテ島 レイテ高校視察旅行記 part2

2 月 11 日から 14 日までフィリピンのレイテ島にある国立レイテ高校への視察。無事、生徒（1 年生 9 名、2 年生 18 名）と教員 3 名で終えて帰ってきました。

- 1 日 程 平成 28 年 2 月 11 日（木）～14 日（日） 3 泊 4 日
- 2 引 率 教員 3 名 石田勝義教頭 宮川純一 河邊友美
- 3 参加生徒 2 年生 18 人(女子 12 人、男子 6 人)、1 年生 9 人(女子 7 人、男子 2 人) 計 27 人（女子 19 人、男子 8 人）

月 日	曜 日	時間	内容	場 所
		14:30	オベット先生の待つシティホールへ向かう。かつて迫間先生と訪問し、会えなかった場所だ。そこでも 3 か所の場所を用意して、ABC の各班の活動を職員、先生方、レイテの生徒たちと実施した。参加した職員の皆さん、実にフレンドリーで、いい感じに盛り上がっていて、準備したことがうまく反映され、上手く実施できたと思う。   事後アンケートも採り、ゲームの効果、意識の変化等を訪ねていた。 職員の方々は、オベット先生の強い押しもあってか熱心に協力してくださった。途中、ゲームを中断して、最高位のチーフの部屋に呼ばれ、挨拶を  した。今度の 5 月にはぜひ行きたいとのこと。5 月中旬の総選挙の後で、きっとひと段落ついてるだろうとのこと。ご本人も若い時に京都に 1 年ほどいらしたことがあって、	シ テ イ ホ ー ル

月 日	曜 日	時間	内容	場 所
			そのホストにも会いたいとか。	
		16:30	Dean が7つの家族に対し、生徒4人、男子を一人混ぜて上手くアレンジしてくれた。グループを呼んで、short stay の家族に引き合わせてくれた。 迎えに来る途中で車が壊れた家族が1つあったが、レイテの子供たちがうまく対応してくれたようで、10分ほどの遅れで済んで助かった。	
		17:00	河邊先生と私は、オベット、Dean、マリアン、Luz、Burnie、で夕食を Robinson's に食べに行った。Specialty といわれるホタテのグリルや、牛のスープが、とてもおいしかった。 Burnie に、英語の授業がとても活発で、アクティビティー中心の授業が、生徒の発話につながることに、日本でも徐々にアクティブ・ラーニングが進行中であること、英語だけでなく、全教科的に進行しないと生徒のそうした能力の開花にはならないのでは、ということ話をした。フィリピンでは、昔からずっとこのスタイルで、生徒たちが発話で自信を付けるのだと、言っていた。	
		20:00	ホテルへ。 生徒たちは、すっかりレイテの生徒たちと打ち解けているというか、ホテルに着いても、もう大盛り上がりで、ホテルの玄関前で、数十分、写真を撮ったり、抱き合ったりして別れを惜しんでいた。	

月 日	曜 日	時間	内容	場 所
2 月 12 日	金	7:00	バスに乗ってレイテハイスクールまで。彼らの準備ができるまで30分ほど待つ。 校門のバナーの下で、全員で記念撮影。 校長は、今日は保護者が来るセレモニーだと言って、昨日のウェルカムセレモニーの開催の場所で、椅子がずらりと並んでいる様子を見せてくれた。 各教科の生徒の成果物の一つずつ見せてくれて、結構生徒らが細かな作品を残していることに驚く。年に4回、こうした保護者対象の発表会があるそうだ。ステージではパフォーマンスも開催されるよう。 バスに乗って、サマール島へ向かう。途中 Brgy 地区や、避難所となったスポーツセンターを通り、海岸沿いを走った。サマール島に入ると、途端に南国の様子がつよくない、ヤシの実のジャングルの木が迎えてくれた。 石田教頭が、お米の違いや、ヤシの木の種類が多いこと、いろいろ話してくれた。ガイドのバージさんが、稲作研究所が、ミラクル45というのを開発して、なんと45日で収穫できる稲を開発したとのことで、3毛作がより可能になったとのこと。 今の時期、穂が実る一手前。日本の水田とは違って、陸稲。密集して一面の雑草のようにも見える。すでにたわわに実っている稲もありで、いろいろな種類を栽培しているようだ。 また鳥がつまみに来るのを、車で追い払えるからと、いまだに道で収穫後の稲を干している農民が多いそうだ。また草を編んでバッグにしたり、じゅうたんにしたりするのが、特産品で、それを干してあったりもした。途中、道に稲を広げて干してある。禁止なんだそうだが、ほかに広い場所もなく干している。時々、バスが、それを踏んでしまっているが、それもやむなしという感じなんだそうだ。 人の集まる場では、バイクと自転車が中心で、車はそれほど多くない。バイクには、4人乗り、5人乗りで、家族で乗っている。 サリサリという雑貨屋さんで、行ったりいる場面をよく見るが、中国人が入ってきて、始めたようだ。それで成功した中国人をまねて、フィリピン人が始めているらしい。	 

月 日	曜 日	時間	内容	場 所
			舗装道路が終わり、でこぼこ道に入り、橋のもとに、船着き場はあった。観光化を進めようと、芝生を刈ったり、コテージを新たに増築したり、花を植えたり、小旗をつるしたりして飾りつけをしている。  ライフベストをつけて、5人ずつ、ボートになる。20分ほど川を上るが、ジャングルの密林を上る様子は、まさに、地獄の黙示録だ。  	
			車で、basey town バセイタウンのダンスホールに向かう。そこも、高潮で3mまで水が来たそう。Luz が博人織団どってくれていて、地元の人が、10人くらい、集まってくれていた。 机を3パートに分け、ABC 班が、シミュレーションゲームを実施。中には、英語が通じにくい人たちもいて、レイテの7人の生徒が、うまく間に入って、取り持ってくれた。 A 班は、シチュエーションの2つ目まで  A 班 DIG  B 班カルタ を実施。十分、地元の人が良く議論をしていていた。 B 班は、手軽にできることもあって、入れ替えをして2グループに実施してもらった。かるた取りは盛り上がっていた。	

月 日	曜 日	時間	内容	場 所
			C 班は、読み手になった地元の人が、ゆっくりカードを読んで、レイテの生徒も、意図が十分伝わっていないのか、あまり乗っていない漢字もあった。  C 班 HUG 気づいたら、40人くらいの小さな子らが、壁沿いにずらっと座って、不思議そうにしながらも、お菓子を受け取っていた。こころ温まるシーンであった。Luz がジュースや、バナナの焼いたの、米粉で作った蒸しパンをふるまってくれた。バナナはお芋のようで、おいしかった。 	
			Dean が中心になって、Farewell ceremony を持ってくれた。Dean から、レイテの生徒から、メッセージがあり、certificate が、生徒一人一人に手渡された。私からも短いメッセージを伝え、バナナの焼いたのに、カラメルを付けたお菓子をオベットのみんなにふるまってくれた。甘くて、とてもおいしかった。  	